

神奈川県立有馬高等学校1年7組 A班

寺子屋リーフレット制作プロジェクトへの挑戦

神奈川県立有馬高校1年7組A班の生徒たちは、「貧困と教育の関係性」に着目し、貧困によって学校に通えない子どもたちの現状を知り、その解決策の一つとして、募金・啓発・教材支援のアイデアを立案しました。特に「読み書きができないこと」がもたらす困難さに注目し、情報伝達の重要性を実感しました。

現状把握と問題意識の深化

世界では依然として7000万人以上の子どもたちが教育の機会を得られていません。識字能力の欠如は、日常生活だけでなく就労機会にも大きな影響を及ぼし、貧困の固定化を招いています。

課題解決のためのアクション

教育機関への介入、啓発ポスターの掲示、教材配布のための募金などを提案。個人が協力しやすく、持続可能な方法を重視しました。また、ポスターやSNSによる発信を通して、社会全体への理解と共感を促進しました。

子どもたちの未来をつなぐ「HURT」リーフレット

「HURT (Help, Understand, Realize, Teach)」の頭文字を用いたオリジナルリーフレットを制作し、教育の重要性と現状の課題をわかりやすく伝えるツールとして展開。プロジェクトを通して生徒たちは「行動すること」の価値を学びました。